

議会報告会 町に対する意見・要望（回答）

（平成26年2月17日から2月21日開催）

1 人口増対策・定住対策の充実を。（子育て支援策、農業後継者不足、婚活等）

（回答）わが国は、人口減少・少子高齢化など社会構造の激しい変化の渦中にあり、本町も例外ではなく、10年、20年先を見据えたまちづくりと人口減に歯止めをかける効果的な施策の展開が求められております。

これまでも、非常に厳しい財政状況下でありましたが、自治区設置や町の将来を担う子どもたちへの投資、住宅団地造成等による定住促進事業や積極的な企業誘致活動による雇用の場の確保、さらに後継者対策を始め基幹産業である農業の振興対策など、将来を見据えた施策を展開してまいりました。

現在、策定作業を進めております第6次総合計画（H27～H34）においても、人口増・定住対策は、重点施策の一つとなるものであり、これまで積み重ねてきた施策をさらに磨き上げるとともに、人口増に繋がる効果的な施策を検討し、ふるさと栗山の魅力を内外に発信してまいります。

※参考 農業の担い手を確保するために、農業関係団体により設立された農業振興公社を中心として、新規就農者の受け入れに力を注いでおり、平成26年4月には2組が新たに就農され、新規就農を目指す研修生は現在、12組にのぼっております。

また、晩婚化・未婚化が進む中、結婚を考えながらも出会いの機会が減少している独身男女の交流を促進するため、昨年に引き続き実行委員会（町内青年4団体）を組織して社会教育的観点から各種講座をカルチャープラザ「Eki」を中心に開催する「婚活応援事業」を実施いたします。

2 地域振興や企業の育成のためにも地元調達・地元優先の発注を。

（回答）これまでも、役場が発注する公共事業や公用物品などは、町内で調達可能なものはすべて地元企業や商店等に発注しており、今後においても継続してまいります。

また、公共施設を管理運営する指定管理者や施設民営化（保育所・老人ホーム等）の移管先である法人に対しても、引き続き地元調達・発注を働きかけてまいります。

3 現行の町道や橋の補修・点検を早急にして欲しい。(長寿化対策)

(回答) 本町が管理する道路橋梁は、町内に104橋あり、健全度把握のため平成20年度から3カ年においてすべての橋梁点検を実施し、平成24年6月に長寿命化修繕計画を策定いたしました。

この計画に基づき、平成25年度から優先順位の高い橋梁から修繕・点検を実施しております。

また、橋梁を除く道路舗装や標識等の点検につきましては、平成26年度に幹線道路を中心として実施する予定であります。

4 スクールバス待合所の除雪対策を。(栗中入口、栗高入口が利用できなくなっている)

(回答) バス待合所については、民間バス会社が所有する待合所であり、本町も町営バスの待合所として利用させていただいております。

国道の除雪作業の際、待合所入口付近が雪で塞がることもあるため、道路管理者である岩見沢道路事務所の方へ除雪の対応をお願いしておりますが、民間バス会社及び岩見沢道路事務所ともに除雪対応が間に合わないのが現状であります。

今後に向けては、バス利用者の利便性を図るため、関係する民間バス会社、岩見沢道路事務所と協議を行ってまいります。

なお、平成25年度、町において2回の除雪作業を実施しております。

5 エコビレッジ湯地の丘の販売戦略は。

(回答) エコビレッジ湯地の丘及び朝日4丁目住宅団地の販売については、栗山町土地開発公社の解散に伴い、平成26年度より栗山町の対応となります。

販売促進については企業誘致、特産品イベントの際及び移住体験者等へ積極的なPRを行ってまいります。また、平成26年度にホームページの更新を予定しており、積極的に情報提供してまいります。

併せて、現地に来られる方へも考慮してPR看板やのぼりの設置、草刈等を実施してまいります。

6 町長の海外視察後の情報公開や報告等を望みます。

(回答) 昨年は、10月1日から10日間にわたり、フランスの「農産物等のブランド化及び6次産業化の推進」と「アグリツーリズムの融合による地域振興」に焦点を当て、担当職員2名とともに研修を行いました。

これまでの研修結果を活かして、現在、策定作業を進めております第6次総合計画に反映してまいりたいと考えており、将来のまちづくりにこの研修の成果が結実できるものと考えております。

海外視察の報告については、今後、広報を通じて町民の皆様にお知らせしてまいりたいと考えておりますのでご理解願います。

7 スクールバス停の維持・管理について、現在使用されていない箇所もあるが補修や移設の計画はあるのか。

(回答) 現在使用されていない町が設置したスクールバス停(=待合所)については、将来的に使用が見込まれない場合は撤去、一時保管することとしております。

その後、他の地域から待合所の設置要望等があった場合には、それを移設して活用します。

また、待合所の補修については、必要に応じて順次行ってまいります。

8 除雪の出動の目安となる地点はどこなのか。(北部は市街地より降雪が多い)

(回答) 本町の除雪委託期間における「除雪作業に係る早朝パトロール」については、2台のパトロール車にて栗山市街地、北・中・南部の4地区にて降雪量の観測を行い、おおむね10cm程度の降雪があったとき又は予想されるときに除雪作業を行っております。

北部地区の観測地点は栗山ダムで、観測時間については、午前0時～午前8時までとなっております。

北部地区については、中・南部地区よりも降雪が多いことは把握しており、早朝除雪終了後においても、その後の観測等を確認しながら必要に応じて対応しておりますが、除雪等については、自治会長を通して要請してください。

9 角田消防分遣所職員の引き上げについて、説明不足ではないか。

(回答) 説明の経緯につきましては、平成25年10月10日に角田町内会連合会の役員の方々に説明を行い、その席で役員の方々から地域住民に安心してもらうために、災害への対応等を文書化し住民へ配布していただきたいとの要望受け、12月に各戸へ配布を行ったところであります。

そのことで、地域の方々には理解していただいていると認識しております。

10 角田改善センターの駐車場増設を。(特に葬儀時、路上駐車や民家の玄関先駐車により支障をきたしている)

(回答) 本来的な設置目的である地域のコミュニティ活動等での施設利用では、駐車場が不足する状況にはありません。

葬儀で使用する場合に駐車場が不足し路上駐車が発生する状況にあることから、角田地域の振興策として第6次総合計画の中で検討することとしております。

11 自治基本条例の住民参加と情報公開の観点から、栗の木プロジェクトの進捗状況、公用車の入れ替え等の情報をいち早く公開して欲しい。

(回答) 「栗の活用事業」につきましては、クリを栗山町の地域資源と位置付けて、国内最北のクリの産地化を目指して“ブランド栗”の生産体制を確立するとともに、1次産業だけではなく、加工や流通、販売、サービス産業の要素を兼ね備えた「6次産業」への転換を目指し平成21年度より取り組んでおります。

現在の状況は、事業者や関係団体による協議会組織において、7件の農家による試験栽培を行い、有識者を招聘した講習会の開催、品質や生産性の向上を図る管理作業とデータ収集、独自品種の調査と育成などを行い、生産体制作りと栽培地拡大に向けた取り組みを進めている段階であります。

平成25年度は気候の影響等により少量の収穫となりましたが、岐阜県の菓子メーカーとの連携により商品化し、札幌市の大丸札幌店で販売して大変好評を得たところであります。

今後については継続して品質、生産性を見込める栽培方法の確立や品種選定に取り組み、商品化の早期実現を目指していきます。併せて事業の進捗についても適宜情報発信に努めてまいります。

「公用車の入れ替え等の情報」につきましては、共用車（理事者・議会・来客者送迎用車両）について、当該車両が交通事故被害に遭ったことから、事故車の更新時期までの残年数、修理費用及び保険で賄われる金額など総合的に判断し、安全面を最優先に、平成25年12月に同等車を更新したものであります。

事故後に直近の議会で報告を行い、補正予算の議決をいただいたところであります。

12 空き店舗、空き住宅解消のため、固定資産税の軽減を。

（回答）固定資産税は地方税法により決定されており、法に基づかない減免は認められておりません。

ただ、現在、自民党は「空き家は防災上、問題があるので撤去した場合の固定資産税減免について法制化を検討する。」こととしており、国の動向について注視してまいります。

13 市街地区の街路整備や集客施設を誘致して、駅前に人が集まってくるような対策を。

（回答）市街地区の街路整備としては「3・4・8新町通街路事業」の実施を「新町地区土地区画整理事業期成会」と連携し、北海道へ引き続き要望し早期実現を目指してまいります。

集客施設の誘致については商工会議所と連携し、情報を共有しながら誘致活動に取り組んでまいります。また、これまで実施してまいりました「栗山町空き店舗活用支援事業補助金」を継続し、商店街の連続性を確保していきたいと考えております。

14 人口増対策として、若者が定住しやすい公営住宅の整備を。

（回答）町公営住宅は、住宅に困窮する低額所得者で、かつ、町内に住所又は勤務場所を有することが入居資格の要件となっております。

また、町では、現在、老朽化した公営住宅の建替事業を主体的に進めており、既存入居者が優先して入居している状況であります。

まちづくり懇談会においても、町民の方から同様なご意見をいただいております、町としても、上記の要件によらないような住宅建設の手法等について、第6次総合計画の中で検討してまいります。

15 大学との交流等を含め、学生による空き店舗を活用したチャレンジショップの開設を。

(回答) 栗山商工会議所において駅前商店街の空き店舗を活用し、由仁商業高校や幼児の体験事業を実施した実績もありますので、町内の北海道介護福祉学校や5校の地域協定大学との連携による空き店舗を活用したチャレンジショップ等を栗山商工会議所と以前の成果を検証した中で検討してまいります。

16 商店街活性化のため、商店と農家が連携できるような環境ができないものか。

(回答) 例えば、空き店舗等を利用して農産物の直売所や収穫時期に駅前商店街のイベント広場を活用した収穫祭、まちの駅を活用した直売や情報提供等について関係団体(JA・商工会議所・駅前商店街組合等)と検討してまいります。

なお、まちの駅では以前に町内農産物直売所と連携した農産物の販売実績があり、今後も、まちの駅での直売を希望する農家から依頼を受けた際、販売を行ってまいります。

17 消費税対策として、ギフトカード発行に対する支援を。

(回答) ギフトカードについてはくりやまギフトカード加盟店会により毎年1,500万円程度が販売され、町内消費に活用されており、また、販売事務はまちの駅「栗夢プラザ」で行われております。

これまで1割分を付加した「プレミアムギフトカード」を年2回販売し、即日完売となっております。今後については消費税の増税に伴う町内消費の動向を見ながら、単なる経費の補助ではなく、町内消費者へのサービス向上を見込んだ事業及び支援策を関係機関と検討してまいります。

18 町道角田鉱線の石炭搬出の大型車の往来が激しいことから、側溝整備と退避場整備

を併せた道路整備を早急に望む。

(回答) 本路線については、ダンプ等の走行について運行する会社に対し、安全運転及び低速走行に努めていただくよう町から要請を行っております。

大規模な道路改良等のご要望と思われませんが、町としては、今のところ本格的な道路改良計画の予定はありません。

今後も現地を確認しながら補修・修繕に努めてまいります。

19 道道滝下由仁停車場線沿いにおいて、夕張川堰堤の柳がせり出しており危険なので早急な対策を望む。(阿野呂地区)

(回答) ご意見のありました箇所については、本町が管理する道路、河川用地ではありませんので、管理者である国・北海道へ働きかけを行います。

20 阿野呂川の治水対策を早急に。

(回答) 阿野呂川の改修については、本工事が平成14年から始まり、平成30年までの計画年次で、延長7.8km、全体事業費47億1,800万円の予定で進められております。

少しでも早期に完成するよう河川管理者である北海道をはじめ関係機関へ引き続き要望してまいります。

21 旧山楽荘になんらかの動きがあった場合には、地域住民に情報を出して説明して欲しい。

(回答) 現在、旧山楽荘の所有者と取り壊しに向けて協議を進めております。今後は、その後の動きがあった場合には速やかに情報を提供してまいります。

22 治山工事に関して林道が大変傷んでいるので補修整備して欲しい。(日出地区)

(回答) 現場を確認の上、必要な対策を講じてまいります。

23 日出先人開拓者慰霊碑の修理をお願いしたい。

(回答) 7月までに修理いたします。

2 4 王子の跡地対策として、王子に働きかけ雇用の場を確保して欲しい。

(回答) 町内湯地の王子研究所跡地(森林博物館跡地)については現在、活用されていない状態ですが、今後については、所有する王子ホールディングス株式会社の活用計画を確認しながら、栗山町における施設の有効活用、周辺整備、雇用創出について検討してまいります。

2 5 中学校通りの町道湯地継立線の除雪が悪い。

(回答) 町道除雪の際、歩道等に雪が残りご迷惑をお掛けしたことでご連絡をいただきました。

本町道につきましては、中学校への通学路でもあり、丁寧な除雪を心掛けるようすぐに委託業者に対し指導をしております。

その後、町内会より同様なご指摘はありませんが、今後におきましても安全・安心な通行が確保されるような除排雪作業に努めてまいります。

2 6 町営バスに関して、乗客が少ないので小型バスでも良いのではないかな。

(回答) 本町が所有する町営バスについては、児童・生徒のスクールバスとしても兼用していることから一部大型で対応しているところであります。

今後、人口減少、少子高齢化、農村部における過疎化、車社会等の進展により、町営バス利用者は減少してくることが想定されますので、第6次総合計画において、順次、小型バスへ更新する予定で計画をしている状況であります。

2 7 湯地1号橋と王子橋の2か所が老朽化しており、狭いことから整備拡張をお願いしたい。

(回答) 老朽化への対策については、平成24年6月に策定いたしました橋梁長寿命化修繕計画に基づき対応してまいります。

また、この路線につきましては、栗山中学校への通学路でもあることから、歩道及び橋梁の拡幅検討について、用地等の状況を調査してまいります。

28 消費税増で負担増となることから、町独自の税金緩和（引き下げ等）の考えはないのか。

（回答）町税は地方税法で決められており、町独自の緩和策は考えておりません。

29 除雪後吹き溜まりができる場所があり、担当の委託業者に電話をすればすぐ対応してくれるようなシステムづくりはできないのか。

（回答）その日の降雪量や気象状況により、除雪作業後に吹き溜まりができる場所はあると考えております。

町といたしましては、緊急の場合を除き、風雪や地吹雪で、吹きだまりの発生が予想される場合、パトロールで現地確認を行うとともに、町内会長・自治会長からの要請により対応をまいります。

30 枝線も含めてスクールバスの運行に間に合うような除雪体制の確保を。

（回答）その日の降雪量、気象状況や道路状況により、どうしても除雪する時間に多少のずれが出てきますことはご理解をいただきたいと思います。

スクールバス路線については、登下校時道路状況が悪い場合等、優先的に除雪作業を行っておりますが、今後におきましても、児童・生徒の登下校の支障にならないような除雪に努めてまいります。

31 町道杵臼線の改修工事の進捗状況が遅いが、計画はどうか。

（回答）杵臼本線道路改良工事につきましては、国に対し事業要望をしておりますが、町が要望している内容に対し、近年は予算が100%付かない状況で、このため単年度の工事延長が短くなっている状況であります。

現在整備している路線は、湯地継立線との交差点までで平成28年度に、終了する予定となっております。

また、道道鳩山継立線までの路線につきましては、平成29年度以降年間で整備予定となっております。

なお、当該町道の改良工事が早期に完了できるよう、引き続き国、北海道等関係機関へ強く要望してまいります。

3 2 継立中学校は統合になるが、小規模の小中一貫校として特色ある教育に取り組むことはできたのではないか。

(回答) 特色のある教育という意味からすると小規模校を中心に特認校という制度はあります。

しかしながら、今回の継立中学校の統合は、「中学生世代にふさわしい大きさの集団で教育を受けさせたい」、「これからの社会をたくましく生き抜く力を育てたい」という教育委員会の判断により、地域の理解を得ながら取り進めたものであります。

3 3 給食費の未納を解決するには、前納制にしてはどうか。そうでなければ、無料にしてはどうか。

(回答) 学校給食法では、給食の提供を受ける児童生徒の保護者に給食費を負担する義務があることが規定されております。

給食費の未納を解決するために、まず1点目の「前納制」を導入することについてであります。これは予め給食費を納めた場合に限り給食の提供を受ける（食べる）ことができるというものであります。前納であれ給食費の負担は保護者の責任であり、児童生徒に何ら責任の及ぶものではありませんので、教育的配慮から、あえて「前納制」を導入するという考えはありません。

また、2点目の「無料」については、はじめに述べましたとおり学校給食法に給食費の保護者負担が明記されておりますので、給食費の完全無料化（町負担）は考えておりません。

3 4 旧ロジ栗の木を町が譲り受けたが、維持管理費が高く利用も少ないことから他の目的に使用できるよう考えて欲しい。

(回答) ロジ栗の木につきましては、町外のスポーツ団体等を中心に短期的な宿泊等に利用されておりますが、年間を通しては、十分に利用されていない状況にあります。

今後の利活用につきましては、各分野において横断的な検討を行い、効果的な運用に努めてまいります。

3 5 ごみに関して分別方法等を電話で照会する場合、フリーダイヤルの設置を考えては

どうか。

(回答) 環境生活課には2本の直通電話が設置されており、新たにフリーダイヤルを設置する必要はないと考えております。

現在は町民からの「粗大ごみ」の事前申し込みを電話で受け付けを行っております。

フリーダイヤルを新たに設置した場合には、粗大ごみの事前申し込みにも利用されることも想定され、フリーダイヤルが繋がりにくくなる恐れがありますので、設置は考えておりません。

36 人口増対策として町内の環境整備が重要と考える。例えば雨煙別川の堤防整備を進め、ジョギングコース等を作り、魅力ある環境を整備し、栗山の良さをPRしてはどうか。

(回答) 現在、平成27年度からの第6次総合計画の策定作業を進めており、人口増に繋がる若者定住対策・高齢社会対策・産業活性化対策を重点施策に掲げ、将来を見据えた分野横断的な検討を行っております。

限られた財源の中ではありますが、ふるさと栗山が誇る自然・歴史文化・風土を活かした環境整備に積極的に取り組んでまいります。

なお、雨煙別川の改修については、北海道が河川管理者として平成9年度から橋の架け替え、平成11年度からは築堤等の整備が下流側より進められてきております。

現在は、中央橋付近まで改修工事が進んでおり、堤防部分については、一部、河川管理用の道路は整備されますが、ジョギングや散策を楽しむような親水性を確保した整備については予定されておりません。